

四季の森公園 里山研究林整備計画

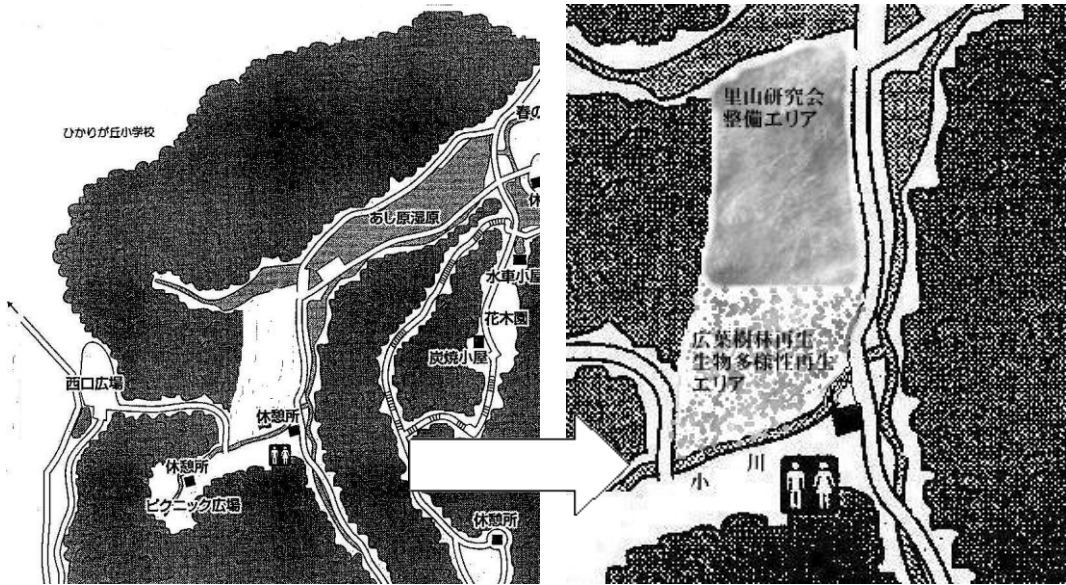
目的

放置二次林となっている里山林を本来あった雑木林へと育成し、林床を豊かにし、自生野生草花の育成を行い、生物多様性のある里山を目指す。

期間 平成17年2月から1ヶ年

方法 シラカシの間伐、アズマネザサの除伐、刈り払いを行う。

場所 下記図



↑小川沿いに見る整備予定の放置二次林。シラカシの幼樹が密生して生えて林床に陽が当たらない。
↓整備を進め、このような明るい林に変えることによって林床植生が豊かになる。



再生可能な主な自生野生草花

ニリンソウ、カタクリ、キツネノカミソリ、
ジロボウエンゴサク、アマナ、ウバユリ、コバギボウシ、ヤマホトトギス、
ヤマユリ、ホウチャクソウ、ナルコユリ、アマドコロ、オオバギボウシ、ツリガネニンジン、ノハラアザミ、シラヤマギク、オカトラノオ、
シュンラン、チゴユリ、ジシバリ、タチツボスミレ、コウヤボウキ

整備計画

- ①第一段階 シラカシの間伐。大径木のシラカシのみ残し、残りは間伐することにより、林床に陽が当たるようにする。
ササ類などを刈り払う。
- ②第二段階 高木類のうち、枝張りをしている木の枝を打ち、密閉している空間を空ける。
夏緑林（落葉広葉樹林）を中心とした雑木林とする。
- ③第三段階 高木を間伐し、萌芽更新を進める。

育成管理

- ① 床植物 自生野生草花の育成 落ち葉掻き等の作業
- ②中低木 落葉性の花木類（ツツジ類、サクラ類、ガマズミ、オオカメノキ、ツクバネウツギ、ウツギ）
常緑性の花木類（ヤブツバキ、）
育成にあたっては、林内相対照度がそれぞれ適正になるように高木類の枝打ち、間伐を繰り返す。

生き物の生息環境づくり（ビオトープの考え方）

里山林は、生き物のすみかと見ることができる。それには、里山林単独では、すみかとして存在することはできない。本来の姿のように里山林は、谷戸の田んぼの林縁、林内と連続している必要がある。里山研究林エリアは、幸い三方を水辺に囲まれているため、生息環境づくりには最適である。こうした環境の中で生息する可能性のある生き物を列挙する。

	生き物の種類	
	蝶類・トンボ類	オオムラサキ、ゴマダラチョウ、ジャノメチョウ、クロアゲハ、カラスアゲハ、タテハチョウ、ヒメアカネ、オオシオカラトンボ、アオイトトンボ、カトリヤンマ、アキ・ナツアカネ、カトリヤンマ、など
	ホタル類	ヘイケボタル、ゲンジボタル
	甲虫類	カナブン、カブトムシ
	鳥類	ツグミ、オシドリ
	両生類ほか	アカガエル、トノサマガエル、アマガエル、ヒキガエル、モリアオガエル、サンショウウオ、カナヘビ、ヤマカガシ、アオダイショウ

作業予定

第一段階	2月	シラカシ類の間伐作業、ササ類の刈り払い
	3月	シラカシ類の間伐作業、ササ類の刈り払い
第二段階	4月	枝打ち作業、シラカシ類の間伐作業
	5月	高木の間伐（萌芽更新をはかる）
	6～8月	森林調査（林床植生、中層植生、高木類材積調査）下草刈り作業
	9～10月	ササ類の刈り払い、下草刈り作業
第三段階	11月	高木の間伐

作業人数

各活動日とも四季の森里山研究会の会員を中心に作業を実施する。

定例会活動人数	各回	15名	11ヶ月間	のべ165人
森林教室の実施		40人	3回	のべ120人
合計				のべ285人

作業成果標準値（参考） 5人チーム 6時間作業としての成果目安

高木・亜高木の間伐	20本前後。玉切り、枝の結束作業などを含む。
育成木以外の選択間伐 幼樹のシラカシなど	70㎡前後
密生した低木類の刈り払い、除伐など。	100㎡前後
ササ刈り	200㎡前後

里山研究会の作業は、2時間とし、上記の数値に当てはめる
作業概算値

第一段階	2月	シラカシ類の間伐作業、ササ類の刈り払い	作業人数45人、2回=90人 36時間作業に相当
	3月	シラカシ類の間伐作業、ササ類の刈り払い	6時間作業相当
第二段階	4月	枝打ち作業、シラカシ類の間伐作業	6時間作業相当
	5月	高木の間伐（萌芽更新をはかる）	6時間作業相当
	6～8月	森林調査（林床植生、中層植生、高木類材積調査）下草刈り作業	6時間作業相当
	9～10月	ササ類の刈り払い、下草刈り作業	作業人数45人 18時間作業に相当
第三段階	11月	高木の間伐	6時間作業相当

まとめ